

講義科目名称	英語学 III	副題	English Syntax
英文科目名称	English Linguistics Studies III		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
深谷 晃彦			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	コミュニケーションの基本となる言語自体をより深く理解するために、英語の統語面を中心に分析方法を学ぶ。分析の枠組みとしては、生成文法の原理とパラメータ理論を用いる。予習内容に基づき教員と受講者でディスカッションを行い、双方向あるいは多方向に行われる討論を通して内容をより深く理解していく。(この授業は「実務家教員」による、実践的な方法による授業である。)
授業の目的	学習文法の枠組みを越えて、さらに踏み込んだ文法現象について理解を深めることを目的とする。英語における現象が中心となるが、必要に応じて日本語との比較検討も行う。また、教員・受講者によるディスカッションを通して、知識の深化および問題点の発見とその解決策の検討を進めていくことにより、論理的思考、問題発見・解決能力を身に付けることも目的とする。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に寄与する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生成文法の原理とパラメータ理論の枠組みによる、英語の基本構文の統語分析方法を理解し、自分で文の分析ができる。 ・ディスカッションを通してこれを達成することにより、発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけている。
授業計画	第1回 Chapter 1: Doing Science with Language: Introductory Concepts 自然科学としての言語学、特に生成文法の基本的な考え方について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、仮説形成と検証、言語生得説、普遍文法などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Chapter 2: The Structure and Classification of Words 語の構造と分類について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、品詞、語形成、接辞などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Chapter 3: Determining the Structure of Sentences 文の構造について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、句構造、構成素、階層構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Chapter 4: Rules of Sentence Structure: A First Approximation 文構造の規則について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、句構造規則、再帰性、構造的曖昧性などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 Chapter 5: Assigning Meaning in Sentences 文の意味について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、文法機能、主題役割、項構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Chapter 6: Some Category-Neutral Processes 範疇中立的な言語操作について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、等位接続、代用表現などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Chapter 7: How Structure Affects Pronoun Reference 代名詞の指示について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、c統御、否定極性表現、束縛理論などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Chapter 8: Complex Verb Forms 動詞の統語について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、再帰的動詞句仮説、接辞移動、D構造、S構造、変形規則などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Chapter 9: Real vs. Apparent Sentence Structure 抽象的な文構造について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、主語助動詞倒置、do補助、接辞移動、VからTへの移動などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Chapter 10: Generalizing Syntactic Rules 統語規則の一般化について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、動詞句・名詞句・形容詞句・前置詞句の構造、指定部規則、補部規則、付加部規則などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Chapter 11: Functional Categories 機能範疇について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、X _{bar} 理論、パラメータなどの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 Chapter 12: Questions, Relative Clauses, and WH Movement A/J移動について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、WH疑問文、関係詞節などの生成過程において仮定されるWH移動の概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 Chapter 13: NP Movement A移動について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、動詞句内主語仮説、受動態、主語繰り上げなどの概念を学ぶ。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Chapter 14: Things to Come: Various Aspects of "Current Theory" その他の発展的な統語現象について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、非対格仮説、VPシールド仮説、主題付与均一性仮説などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Summary and Review 第1回から第14回までの議論を振り返り、生成文法の原理とパラメータ理論について全体像を概観する。生成文法のその後の理論展開についても触れる。(実務家教員による授業)
テキスト	Sobin, Nicholas. 2010. <i>Syntactic Analysis: The Basics</i> . Wiley-Blackwell. (ISBN: 9781444335071)
テキスト購入方法	各自で購入する。

参考文献	渡辺明（2009）『生成文法』東京大学出版会 中村捷他編（2002）『英語の主要構文』研究社 中島平三編（2001）『〈最新〉英語構文事典』大修館書店 畠山雄二編（2019）『正しく書いて読むための英文法用語事典』朝倉書店 田子内健介（2020）『英文法基礎論』開拓社 安藤貞雄著（2005）『現代英文法講義』開拓社 安井稔・安井泉（2022）『英文法総覧 大改訂新版』開拓社
成績評価の方法	ディスカッション：50%、課題：50%
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。
履修上の注意	特になし。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。 事後学習：テキストの指定範囲やディスカッションの内容を復習する。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	テキストの指定範囲を読んできていることが前提となるので、必ず予習をしてください。